日中友好新聞

府連通信

2012年10月号

日本中国友好協会大阪府連合会
〒530-0013
大阪市北区茶屋町10-6
阪急北ビル４階
TEL06-6372-8131
050-3413-6491
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail:jcfa@jt8.so-net.ne.jp
ホームページ
http://www005.upp.so-net.ne.jp/jcfaosaka/

南京平和の旅中止について

十一月に予定していた平和の旅は、不測の事態を考慮して中止します。どうぞご理解下さい。

大阪府連・常任理事会

満州から引き揚げ体験漫画展開催
悲惨な体験を美しく明るいマンガに

十一日から十六日、芝田町画廊で「漫画展～中国からの引き揚げ・少年たちの記憶～」が開催されました。

引揚げ体験や満州時代の子どもの視点から、生き生きととらえていると好評でした。「亡くなった兄や妹に会えた気がした」「終戦時の中国を思うと胸が痛む思いです」「マンガで伝えることは大変素晴らしい」「悲惨な体験の中でも、美しく明るいマンガになっている」「日本軍の弾圧風景や引き揚げの悲惨さがあまり伝わらない」「赤塚不二夫の『カラスの大群』が印象的でした」「一点でも原画を見たかった」「戦争だけはしてほしくない、平和を守る努力をするのは大人の責任だと思う」などたくさんの感想が寄せられました。

この漫画展は日中友好協会創立六十周年・中国からの引き揚げ六五周年を記念して企画され、あしかけ三年にわたり全国各地を巡回し、引き揚げ体験者やその関係者、家族や知人などから感動の声があがり、多くの方々から好評を博してまいりました。

日本の植民地「満州」から、子どものころ引き揚げの体験をして、後に漫画家として大成された方々が、中国からの引き揚げに焦点を絞った作品群を創作され、日中友好協会主催のユニークな展覧会の実現に至りました。

漫画展の成功のため、各種団体や個人から多額の協賛金をお寄せいただき、誠にありがとうございました。漫画展を鑑賞された方は二百名を超えました。

領土問題は話し合いで解決を

尖閣諸島の領有をめぐって、暴力破壊行為にまでエスカレートし、日中間に緊張が激化しています。その後の報道では、「日中理性取り戻せ」と中国知識人がネット署名を呼びかけています。反日デモのさなか、「友好団体関係者ら戸惑い」「感情的対立、悲しい」と「毎日新聞」十六日朝刊で紹介されました。府連事務所にも電話で毎日新聞記者から問い合わせがあり「『話せば分かる』という私たちの姿勢に変わりはない。草の根レベルで交流を続けたい」と応対した事務局の声が掲載されました。神戸南京町商店街や中国残留婦人の孫、ＮＰＯ研究員からの声も掲載されました。

拡大理事会の開催について

十二月二日（日）午後一時から、新谷町第３ビル原水協会議室で拡大理事会を行います。

支部役員と会員対象で、中国情勢の学習も行います。終了後、交流・懇親会を開催します。

ふわーをテーマに攻防基礎講座

六日～八日、石清水体育館で大阪西支部主催の太極拳攻防基礎講座パートⅣが、福岡から愛知まで六六名が参加して開催されました。

今回のテーマは《ふあー！》と身体を動かすことで、肘まる体操やらせん突きなどの基本功をみっちり練習しました。

向かい合って攻撃と防御を交互に行なう対練では、二四式の形を使って相手の攻撃を迎えます。一人練習ではできても、向かい合って攻撃されると、なかなか上手く受け切れません。

ヌンチャクの練習や横受身、対練など三日間みっちり攻防の基礎練習を行いました。

秋の中国語講座へどうぞ

阪急梅田駅茶屋町出口から徒歩１分、

発音の基本から文法、日常会話の完成をめざす、親切丁寧な授業が特徴です。途中入学もＯＫです。

10/1～3/18　週一回・２時間授業・２０回

初心者から上級まで20数クラス有ります

入学金：18,000円、受講料：48,000円

中国「残留孤児」配偶者の生活支援を求める請願署名！

残留孤児の生活は、新支援法により改善されましたが、中国「残留孤児」が死亡した後も、配偶者がその生活水準を維持できるよう、新支援法を改正して、手厚い支援を求めて請願署名を集めています。

みなさんのご協力をお願いします。

西支部総会・新入会員坂本さんが発言
創立五〇年の旅で平和の大切さを実感

九月三〇日、西支部定期総会が台風接近の風雨の強い中、十五名が参加して開かれました。松尾豊大阪府連理事長が「国交回復四〇年の節目の年に尖閣列島問題で大きな摩擦が起きていますが、日本が正しい戦後処理を行なって、双方平和的な外交交渉で話し合いを始めることが必要だ。中国「残留孤児」が死亡した後も、配偶者がその生活水準をその生活水準を維持できるよう新支援法を改正して、手厚い支援を求める請願署名に取り組んでいます。ぜひ大きく広げてください。西支部が大阪府連の中心として活躍されることを期待しています」と来賓あいさつ。

滋賀支部・市村さん来賓あいさつ

西支部創立五十年記念・中国東北部平和の旅に参加された坂本さんは五歳で敗戦、逃避行から帰国までを語り、六十六年ぶりに長春の妹さんの墓参ができ感謝している。平和の大切さを実感していると語られました。

恒岡さんは「太極拳教室の運営では会場確保で苦労している。社会の変化で若者の参加も少なく受講生も減少しているが、近畿の中心としてレベルアップに取り組んでいる。昨年の合宿では東北大震災支援募金を訴え、会員からのカンパも含め二十万円を宮城県連へ送りました。今年も合宿も計画している」と発言。二名の五十年会員に似顔絵と寄せ書きを贈り、懇親会では初参加の坂本さん、浜口さん、多胡さん、平澤さんをかこんで交流を深めました。

古都西安の旅・空海の記念碑や兵馬俑へ

中国の歴史や文化を理解するなら、西安だと聞いていたので今回訪れました。

昔は長安といわれ、人口８００万人の大都市で、文化・教育の街とも言われています。１００の大学・学生数１００万人、街には若者が溢れています。小学校の授業が終わると、校門前に沢山の保護者がお迎えに、一人っ子政策で教育には、お金をかけているという印象を受けました。

中華民族発祥地の一つ、秦、漢、唐等中国史上最も盛んな三つを含む十三の王朝が西安に都をおき、アテネ、ローマ、カイロとともに世界四大文明古都と称されています。シルクロードの西への起点の城壁は壊され、小さな印が残っていました。

遣唐使の訪問など日本との縁も深く、興慶宮公園の阿倍仲麻呂記念碑や、青龍寺の空海記念碑などは、日中交流の足跡を示すものであり、高松塚古墳の色彩の鮮やかさは、この西安から学んだものといわれ、まさに日中文化交流発祥の地という印象をうけました。

シルクロード起点

西安兵馬俑

二〇世紀最大の発見・世界遺産兵馬俑は、１９７４年井戸を掘っていて偶然見つけられました。面積二万平方キロ以上、坑の中に人間や馬と同じ大きさの色彩「俑」が６０００以上あり、現在もまだ発掘は続けられています。

埋蔵文化財の関係で西安の地下鉄は一路線、来年もう一路線開通予定です。中国の大都市はすごい車のラッシュ、交通マナーの改善が大きな課題です。（平松悦雄）

中国経済トピックス③
国有経済が民営経済を圧迫「国進民退」か？

副会長・山本恒人

表題をご覧になった方は違和感を覚えるかもしれません。中国の改革・開放路線というのは基本的には経済の市場化でした。

それは人民公社解体＝農村改革であり、過剰雇用に悩む国有企業改革は後回しにして、個人経営・私営企業・外資系企業といった非国有経済を認知し、その活力で経済全体の足腰を鍛えることからスタートしたはずです。

こうして経済成長が軌道に乗ったからこそ、１９９０年代後半から国有企業改革がピークを迎えることができたのです。重点企業は国が押さえるが、赤字企業や中小企業は思い切って民営化し、残る国有企業も約３０００万人規模の大リストラを断行する。この方針のもとに、従業員数でいえば、国有を中心とする公有企業は１９７８年の九九、八％から２０１０年の二〇、五％に激減し、国有企業に限っては１９９５年のピーク時の一億１２６１万人から２０１０年の６５１６万人へと劇的に縮小しているのです。

このような変化は表面的には、「国有企業が民営企業を圧迫（国進民退）」ならぬ「民営企業が国有企業を圧倒する（国退民進）」証拠のように見えます。ところが今、「国進民退」が大問題となっているのです。

今年二月に世界銀行と国務院発展研究中心が共同で作成した『２０３０年の中国』が発表されました。この報告書は、改革・開放の三〇年を高く評価し、今後、高速成長から中速成長の時代に入るが、２０３０年までには高収入で、世界一の経済大国になるという展望を示しています。しかし、この報告書の眼目は、改革を怠ればこのようなシナリオが破綻することを警告し、構造的改革を提言するところにあります。

リーマンショック後の大規模な景気刺激策の実施過程で「国有企業が民営企業を圧迫する（国進民退）」傾向が強まり、この歪みを是正して民間部門の活力を引き出すことこそ持続的成長の鍵となる、と主張しているのです。

この報告書は「国務院発展研究中心」が共同作成者になっていますから、まだ柔らかい表現と言えますが、「国進民退」をめぐってはすでに中国が「国家資本主義」の領域にあるという議論も盛んです。続編で詳述します。